



2013年度  
複十字シール图案  
デザイン:安野光雅画伯

# 健康の輪



健康日本21

編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

## 公益財団法人結核予防会新山手病院本館等施設整備完成竣工式

平成25年10月26日東京都東村山市にある公益財団法人結核予防会新山手病院において、竣工式が開催され秋篠宮妃殿下がご臨席になりました。

新山手病院及び隣接の介護老人保健施設保生の森の内覧会では放射線診療センターをはじめ院内の最新医療設備などをご視察になりました。

また、本竣工式の開催に合わせて、秋篠宮妃殿下よりお成りの記念として、記念のご植樹枝垂れもみじ「手向山」をいただきました。



公益財団法人結核予防会新山手病院本館等施設整備完成竣工式を記念してご植樹のご様子

### 結核予防婦人会の 皆さまへ — その2 —

公益財団法人 結核予防会  
総裁 秋篠宮紀子

本年も皆さまが力を合わせて結核予防活動を進められていることに心から感謝申し上げます。

この数年間、「結核および健康に関する意識と行動調査」を実施いたしました。中央講習会や全国の地区別講習会を受講された皆さまがご協力下さいましたアンケートの調査結果について、『健康の輪』107号に

引き続き、ご報告させていただきます。今回は、「第14回結核予防関係婦人団体中央講習会」の参加者のご協力と、講習会を受講する前と受講した後におこなった調査から得られましたいくつかの結果をご紹介します。

① 結核に関する理解が更に深まる  
結核予防会は毎年、結核について広く人々に正しく理解していただくために、パンフレット『結核の常識』を作成し、配布しています。調査では、当時もっとも新しかった『結

核の常識2009』の内容を参考にし、結核に関連する13項目を作成し、それぞれ「よく理解している」(5点)から「まったく理解していない」(1点)までの5段階でご自分自身の理解の程度をお答え頂きました。項目の内容は、結核への感染、服薬の効果、結核の予防法、DOTSなどの医学的内容、日本での結核患者の数、罹患率の地域差、患者の高齢化などの疫学的内容、世界における結核の現状などです。合計得点が高いほど、理解の程度が高いと考えていることを示すこととなります。

回答の結果は次頁の図1のようになりました。

講習会の受講前と受講後の平均

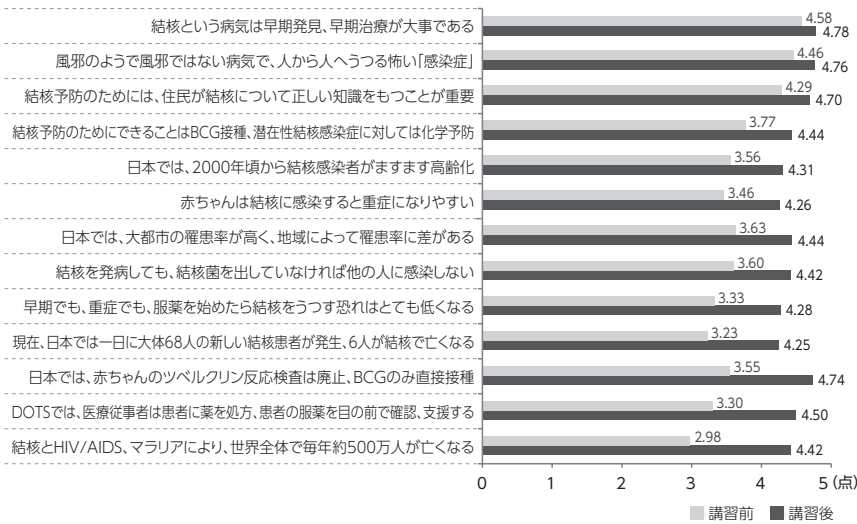


図1 結核についての理解度の変化 — 講習会の受講前と受講後との比較 —

得点を比較すると、13項目すべてについて、受講前よりも受講後に平均点が高くなり、統計的に有意な差がみられました。「住民が正しい知識をもつことが重要」、および「風邪ではない、人から人へうつる怖い『感染症』」という基礎的な項目については、受講前から平均点が4.29～4.46と高く、受講後には4.70～4.76とさらに高い数値をとりました。これに対して、「結核とHIV/AIDS、マラリアにより、世界で毎年約500万人が亡くなる」という疫学的な項目は、受講前には平均点が2.98と低かったのですが、受講後には4.42と大幅に上昇しました。同様に、「早期でも、重症でも、服薬を始めたならうつす恐れはととも低くなる」という治療についての項目は、受講前の平均点が3.33であったのが、受講後には4.28に上昇しました。

## ② BCG接種の効果について 知識が向上する

BCG接種は、107号でも触れましたが、結核菌による発病を予防するため、または発病しても軽症で抑えるための予防接種です。

今回の調査でも、BCG接種の効果として「結核に対する治療」、「結核に対する免疫力をつける」、および「結核菌の吸入を防ぐ」の3項目

を挙げて、それぞれについて効果が「ある」・「ない」・「わからない」の3択法で尋ねました。

講習会の受講前と受講後の回答結果を比較すると、「結核に対する治療」という効果がないこと、および「結核に対する免疫力をつける」効果があることについては、受講前より受講後のほうが、正答した者がそれぞれ統計的に有意に増え、講習会によって、BCG接種についての知識がある程度増加することが確かめられました。これに対して、「結核菌の吸入を防ぐ」効果がないことについては、正答者が減っており、BCG接種の効果について正確に理解することが難しいこともわかりました。

## ③ 結核予防啓発活動が重要である との思いが強くなる

結核予防婦人会の皆さまは、各々の地域において、複十字シール運動や結核予防週間での街頭キャンペーンなどの結核予防啓発活動を進めていらっしゃいます。

その中から15の結核予防啓発活動を選び、その重要性について、それぞれ「とても大事である」(5点)から「ほとんど大事ではない」(1点)までの5段階でお答え頂きました。

講習会の受講前と受講後の回答

結果を比較すると15項目すべてについて、受講前に比べて受講後の平均点が高くなり、そのうち12項目が統計的に有意に上昇していました。得点の上昇幅が大きかったのは、「マスコット『複十字シール坊や』の普及」、「婦人会のスタディーツアーへの参加」、「会報『健康の輪』を読む、投稿する、または編集する」などの項目でした。これに対して、受講前後で統計的に有意な変化がみられなかったのは、「複十字シール運動への参加」、「結核予防週間キャンペーンへの参加」、および「結核を伝える新聞、テレビ、ラジオの報道内容を周囲の人々に伝える」の3項目でしたが、これらは講習会の参加者の多くがすでに参加・実践している活動であり、受講前の得点が高かったことが影響しているのではないかと考えられます。

## ④ まとめ

今回の調査から、結核予防中央講習会には、1. 参加者のBCG接種の効果についての知識が高まり、2. 結核の治療・予防の方法など結核に関する理解の自己評価が増し、3. さらに結核予防婦人会が取り組む結核予防の普及啓発活動が重要であるという思いが強くなる、という効果があったことが確かめられました。

中央講習会に集う全国からの参加者が学ばれたことは、各ブロックの地区別講習会を通して、地域の人々へ伝えられていきます。改めて、講習会で熱心に講義をお聞きになり、活発に議論される参加者を心強く思っております。今回の調査結果が、今後の結核予防活動を進め、中央講習会の内容をよりよいものとしていく上で参考になれば幸いです。

これからも皆さまと共に、結核のない世界をめざし、人々の結核についての意識と知識を高め、結核予防活動を続けて参りたく存じます。

## 平成25年度地区別結核予防婦人団体 幹部研修会（5地区）開催

### 北海道地区

北海道健康をまもる地域団体連合会  
会長 齋藤 芳子



平成25年7月5日～6日、国立大雪青少年交流の家において「北海道家族の健康をまもる講習会」を開催し、第46回を迎えました。平成29年には50回の記念大会を開催予定です。北海道の後援を得て、結核予防会、北海道対がん協会、北海道食生活改善推進協議会と私共が協力して実施出来ます事は、道内各市町村のご理解とご支援が大きな支えとなって、健康に対する意識の向上とりわけ結核から家族を守るという設立当初の目的を常に踏襲し、より一層の知識を深める事を大きな目的として講習会を継続して開催し、複十字シール運動の進め方等研修を行ってまいりました。

この度は「話題のトリインフルエンザ」と題して、結核予防会医療参与 富樫武弘先生の、感染症予防の基本的知識とワクチンの免疫反応等結核とは無関係でない事、又、札幌がん検診センター放射線科長 黒炭邦夫先生の「マンモグラフィの常識・非常識」乳がんの発見率、欧米型食生活、都市環境の化学物質による影響について等、興味深い講演を拝聴致しました。参加者による全体交流会は交通不便な大自然の中での開催と、都市開催での賛否両論のフリートークを行い広域な北海道ならではの問題提起があり検討課題と重く受け止めたところです。



### 東北地区

岩手県地域婦人団体協議会  
会長 及川 公子



平成25年11月14日（木）～15日（金）ホテル紫苑にて平成25年度東北地区結核予防婦人団体幹部

研修会が開催されました。

特別講演「日本の結核対策の軌跡から学ぶ」結核予防会顧問 島尾忠男先生。

講演「BCG接種—子供の結核予防の決め手—」結核予防会結核研究所名誉所長 森亨先生。

スクリーンを使ってお話しされ会員の理解も深まりました。両先生に感謝です。

シンポジウム『健康づくりと求められる婦人団体の役割～検診受診率アップをめざして』

「短命県全国最下位の脱却をめざして」地域の中核となって健康増進に貢献と青森県の向井様。

「広報の防災無線を使い検診受診の呼びかけ」をする秋田県の赤倉様。

「明るく楽しく健やかに」被災者支援にも力を入れる宮城県の佐々木様。

「家族の健康は主婦の手で」を合言葉に活動している山形県の佐藤様。

保健と医療の向上に顕著な功績で日本農村医学会「金井賞」受賞。JA女性部福島県の草野様。

病院ボランティア花壇作り「こころの四季」を総勢800名で、「病院を大事に思う心、自分の健康生活を守り、安心して暮らせる故郷を次世代に」と岩手県の内田様。

基調講演『結核のない世界をめざして、私達婦人会は歩み始めた…』全国結核予防婦人団体連絡協議会理事・事務局長 山下武子様。

文化講演『あすからの暮らしをよりよく生きる～生活再支援現場から見える幸せのカタチ～』NPO法人暮らしのサポーターズ副理事長 吉田直美様。

2日間にわたり盛り沢山の研修会でした。



まず午前中は講演Ⅰ「結核予防婦人会活動とシール募金について」を婦人会活動の案内冊子「すこやかに」をテキストに、(公財)結核予防会事業部顧問の山下武子全国結核予防婦人団体連絡協議会理事・事務局長より名言で示すわかりやすい講義を聴きました。

午後は講演Ⅱ「ワクチンは子どもを守る一子供の結核とBCG」について(公財)結核予防会研究所森亨名誉所長が専門的医学知識を入れながらのお話は心引き締まる思いでした。その後は6班に分かれて、現状報告、課題と展望について意見を出しあい各班が発表を行いました。参加者の活発な意見で時間が足りないくらいでした。

研修会は本部事務局の心温まる支援も受けながら、大変充実したものとなりました。趣旨の浸透は未だですが、一人でも多くの方々の理解のもとに、私たちはシール運動に重点を置き各婦人会が結束して、結核予防に関する知識の向上と相互の親善を図り結核のない、明るい住み良い社会づくりに寄与していかなくてはと強く感じました。皆様のご協力ありがとうございました。



## 中国・四国地区

徳島県結核予防婦人会  
会長 藤田 育美



12月4日から2日間、18年に1度の当番県として、第16回中国・四国地区結核予防婦人団体幹部研修会を開催致しました。初日は県内外を含め、総勢150名が参加しました。

最初に、徳島大学大学院教授西岡康彦氏から「COPDとは?」、続いて(公財)結核予防会結核研究所名誉所長森亨氏から「BCG接種小児結核の決め手」と題してお話を頂きました。講演終了後、(公財)結核予防会理事結核研究所対策支援部長である小林典子さんをコーディネーターとして迎え、パネルディスカッションを開催。①複十字シール運動 ②結核予防普及啓発活動の報告 ③結核予防婦人会の役割と3つのテーマについて各県から活発に発表がされました。2日目は300名が参加、記念講演として南蔵院第23世住職 林覚乗氏から「心ゆたかに生きる」と題し、心が豊かであればそれが幸せということについて例を挙げてお話いただきました。最後に、次回開催県の鳥取県からご挨拶を頂き、充実した二日間の研修会を閉じました。

最初に、徳島大学大学院教授西岡康彦氏から「COPDとは?」、続いて(公財)結核予防会結核研究所名誉所長森亨氏から「BCG接種小児結核の決め手」と題してお話を頂きました。講演終了後、(公財)結核予防会理事結核研究所対策支援部長である小林典子さんをコーディネーターとして迎え、パネルディスカッションを開催。①複十字シール運動 ②結核予防普及啓発活動の報告 ③結核予防婦人会の役割と3つのテーマについて各県から活発に発表がされました。2日目は300名が参加、記念講演として南蔵院第23世住職 林覚乗氏から「心ゆたかに生きる」と題し、心が豊かであればそれが幸せということについて例を挙げてお話いただきました。最後に、次回開催県の鳥取県からご挨拶を頂き、充実した二日間の研修会を閉じました。



## 関東甲信越地区

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟  
会長 谷茂岡 正子



平成25年11月22日、1都9県の各婦人団体の幹部・担当者等50人が集まり、渋谷区にあるアイビー

ホールで第11回関東甲信越地区結核予防婦人団体幹部研修会が開催されました。東京地婦連は担当県として開催準備のお世話をさせていただきました。

九州地区

宮崎県健康増進婦人の会  
会長 谷口 由美繪



第45回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会が平成25年10月15日、16日の両日にニューウェル

シティ宮崎において、九州8県より200名が集い盛大に開催されました。

講演Ⅰは、結核予防会結核研究所の石川信克所長の「世界につながる健康づくりの輪—結核のない世界をめざして—」でした。

講演Ⅱは、結核予防会結核研究所の森亨名誉所長の「BCG接種—子どもの結核予防の決め手—」で

した。

講演Ⅲは、宮崎県看護大学の江藤敏治氏の「禁煙は愛です～笑顔で禁煙、幸せ応援～」で、ユーモアを交え会場の参加者と共に考え楽しく分かりやすいご講演でした。

夜は、各県出し物の見事な演芸の数々で、和やかな交流会となり「九州は一つ」の思いを新たに致しました。

次の日のシンポジウム「地球における結核予防会の活動」として、福岡県・鹿児島県・宮崎県の代表の事例発表がありました。様々な結核制圧の取り組みや、活動の悩み等が発表され、結核予防婦人会の力強さを感じました。

健康づくりの輪を広げていくことが、私達の大きな使命と再確認した意義ある大会でした。



複十字シールキャンペーン活動報告

福島県健康を守る婦人連盟  
会長 佐藤 裕子



福島県健康を守る婦人連盟では、健康意識の向上と疾病予防思想の普及啓発のため、県北・県南・

会津・浜通りの4方部において「健康集会」を開催いたしました。会場では複十字シール運動期間に併せた募金運動を実施し、多くのご協力をいただきました。

また、いわき市主催の街頭キャンペーンに参加し、小名浜地区の敬老会々場において来場者へ啓発グッズを

手渡ししながら「年に一度は健診を受けましょう」と呼びかけました。私共の呼びかけに対し、足を止め熱心に耳を傾けてくださる方が数多くおられ、大変嬉しく感じました。

あの震災によって休会を余儀なくされた婦人連盟も、現在ではそのほとんどが活動を再開しております。これもひとえに、皆様からのご支援・ご協力によるものと日々実感いたし

ております。しかし、一部地域では復旧・復興が進まず、未だ休会を余儀なくされている婦人連盟がございます。このような状況でも、私たち福島県健康を守る婦人連盟は互いに支え合い、結核予防をはじめとした各種健康づくりにおいて『健康の輪』を広げて参る所存でございます。



いわき市キャンペーン



健康集会

茨城県健康をまもる女性団体連絡会  
副会長 関根 ひろ子



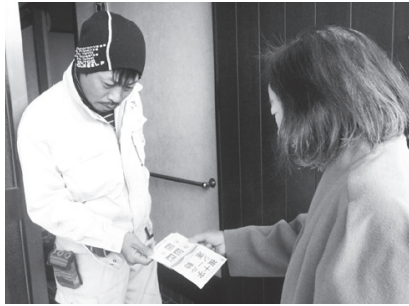
「結核予防会です。健康を守りましょう」「最近また結核が増えているんですよ」との声かけをしながら

パンフレットや、シールぼうやイラスト入りファイル等を配布しました。

昨年、9月30日の事、足早に受け取って行く方々も多いですが、時には「結核予防会って何?」とか「どんなこと?」との言葉が返ってきました。私達は拙いながらも結核は昔の病気ではない事や、日本では年間2万2千人程の人が発症している事などを伝えて、僅かな会話でしたが、その後「ご苦労さま」の声をかけられると互いに笑みがこぼれ清々しいものが残りました。ちょっとした声かけが人の輪をつくり、心が伝えられると再確認しています。

数年前、市内の高校でゴホゴホと長引く咳をしていた男子生徒が、結核と分かって入院し、その後クラス全員がツベルクリン反応で陽性だったという事がありました。幸い大事には至りませんでした。感染症の怖ろしさ、そして早期発見、早期治療の重要性を一層感じています。

私達女性団体は、毎年、県検診協会から頂くパンフレットやシールぼうやを、結核予防、COPDへの啓発の為に、地域の家々を訪ねて配っています。これからも女性の視点で明るい社会を創造してきた先人達の意気をしっかりと受け止め活動していきたいと考えています。



岐阜県土岐市女性連絡協議会  
会長 三輪 やよい



私達の市においては「陶史の森」という岐阜県と土岐市が保健保安林として、市の中央丘陵地帯の森林を活動整備した自然公園104haがあります。

自然と親しみながら、ふれあい、観察し、自然教育の場、憩いの場として活動する場所で、毎年、夏休み過ぎ、森林の大切さや自然体験を目的として「陶史の森まつり」のイベントが開催されています。

市内の子供達の多くに丸太切り体験、木工教室、樹木博士、しおり作り、科学遊びなどなど、1日を「陶史の森」で楽しむためのイベントです。

私達、土岐市女性連絡協議会は、この地方の郷土料理でもある五平餅や地産地消の夏の味噌汁、飲み物などイベントの軽食販売を担当します。

中学生のボランティアと共に、軽食の売り込みやテントの一角には複十字シール運動も展開し、声を張り上げてご協力いただけるよう陶史の森中歩きます。

当日はシャトルバス運行で1500人から2000人の親子連れで、賑やかな森林となります。

中学生のボランティアと共に複十字シール運動キャンペーンを毎年実施しています。



高知県健康づくり婦人会連合会  
会長 寺尾 敦子



快晴に恵まれた9月29日、全国一斉複十字シール運動キャンペーンを高知市一の繁華街で県2名、応援の医師会准看護学院生10名、支



部13名と私達理事15名の総勢40名で大々的に実施致しました。

本部には看板、のぼり旗、風船600個、机の上には募金箱とシールぼうやが並び、とても華やかでした。また、横での着ぐるみは子供達に大人気。

そして、本部前広場には無料検診車、保健師の血圧測定と一帯が健康づくり会場となる中、理事はオリジナルTシャツで風船を持ち啓発用冊子、リーフレットやティッシュを配布しながら募金協力をお願いしました。

また、300年の歴史で350店が並ぶ日曜日でも全国からのお客様に協力をいただきました。マイクの呼びかけに手を引かれた幼児や部活帰りの学生がお小遣いの中からポトリと入れてくれます。本当に貴重な善意の募金です。一方、着飾った女性は足早に通り過ぎて行きます。

今年もいろいろな人間模様が見られたキャンペーンの1日でした。



の事を学ばせていただきました。ありがとうございました。



**熊本県健康を守る婦人の会  
阿蘇支部長 鞭馬 志津子**

熊本県健康を守る婦人の会 阿蘇支部では、保健センターの支援を受け平成25年9月7日(土)に小国町の「フレインゆめおぐに店」の店舗前を借用して、結核予防街頭キャンペーンを開催いたしました。

阿蘇市、小国町、南小国町、南阿蘇村の会員9名とご多忙中にも関わらず、阿蘇保健所保健福祉課より2名参加いただきシール募金と啓発活動を行いました。

当日は両町の小学校の運動会と日程が重なり店舗来客の出足が心配されましたが、思いのほか多くの方々が来店され、また私達の顔見知りの方々も多く快く募金していただき、キャンペーンは盛り上がり一安心いたしました。

婦人の会は日頃から住民健診や人間ドックの受診を推進し心も体も元気で過ごせる事のありがたさを会員・家族はもとより、多くの方々に啓発していく活動が務めであり、医療費の軽減にもつながっていくのではないかと考えています。

今回このキャンペーンを小国地区で開催して、啓発の重要性等、多く



## カンボジアのスタディツアーに参加して

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会  
理事 松尾 美智代



昨年11月26日～12月1日、カンボジア結核予防対策スタディツアーに婦人会では北海道会長、青森県会長、神奈川県と3団体の理事が参加しました。

初日は、空路バンコク来替により首都プノンペンには夕方着でした。

27日結核予防プロジェクトサイト紳士服製造工場の視察をしました。入り口にはイギリスサッカーチームの大きい写真が飾られ元気の呼びかけのような気がしました。従業員3,400名（うち女性3,100名）が昼夜2交替（9時間30分就業）で勤務、原料は、香港、タイから輸入され完成製品はすべて外国へ輸出されているとのこと、ちなみに1日の生産量

は10万枚と聞きました。うず高く積まれた布の間での縫製作業、風邪をひく人が多く結核予防対策を重視し、医師2名が常駐して健康管理が行われ、検診の重要性を感じました。

次に、CATA結核予防事務所を表敬訪問し、結核予防婦人会との交流を行いました。

会の活動状況をお聞きしたあと、複十字シール募金の中の1部1,000ドルを贈り今後の活動の基金として活用していただくようお願いしました。

翌日は検診車贈呈式、カンボジア保健大臣のご挨拶をいただき中でも1900年～2011年までに結核死亡率60%減少したとのお話があり、結核対策に対する継続的支援をお願いしますと結ばれました。スライドからも日本の貢献度の高さを感じました。かつて日本も国民病と言われた病でしたが医療の進歩と検診の成果で、結核も忘れられる状況にあり

ます。

貴重なこの体験を元に結核0（ゼロ）運動の推進は欠かせない活動です。

JICAシニアボランティア清水直美看護師のお計らいにより国立小児病院の訪問ができました。全国1ヶ所の病院は150床、デング熱、下痢、皮膚病、エイズや結核等も多く看護管理が必要と感じ、看護師263人に週1回研修指導を行っているとお話でした。やせこけた小児の姿に心が痛みました。

かつてポルポト政権時代の大虐殺が行われた地に行き慰霊の塔に花をたむけ平安の祈りを捧げました。当時のことを忍ぶ時慰霊の塔が思い出されまだまだ発展途上国の支援に力を注ぎ平和の鐘を鳴らし続けたいと思います。





# 心の絆プロジェクト 2013 活動報告

一般社団法人ヒューマン・ケア心の絆プロジェクト主催の健康セミナーやスポーツセミナーなど、様々な取り組みを通じて心のケアに向けた被災地での支援活動を結核予防婦人会は結核予防会とともに共催しております。

昨年も、岩手県・宮城県・福島県の仮設住宅集会場12ヶ所で、健康相談コーナーとして「肺年齢測定」を無料で実施いたしました。測定人数は合計417名で会場別では以下のとおりです。

9月8日(日)	岩手県釜石市	24名	9月29日(日)	岩手県宮古市	16名
9月8日(日)	宮城県気仙沼市	44名	9月29日(日)	福島県相馬市	23名
9月15日(日)	岩手県大船渡市	11名	10月6日(日)	福島県郡山市	34名
9月21日(土)	宮城県名取市	42名	10月6日(日)	福島県いわき市	22名
9月22日(日)	岩手県宮古市	25名	11月2日(土)	岩手県盛岡市	77名
9月22日(日)	宮城県東松島市	22名	11月16日(土)	宮城県気仙沼市	77名



## 編集委員就任ご挨拶

千葉県連合婦人会  
会長 飯田 和子



この度はじめて、大塚満子委員の後任ということで編集委員となりました飯田和子と申します。

結核予防会職員、先生方、結核予防婦人会の神奈川県松尾委員、東京都の谷茂岡委員と一緒により

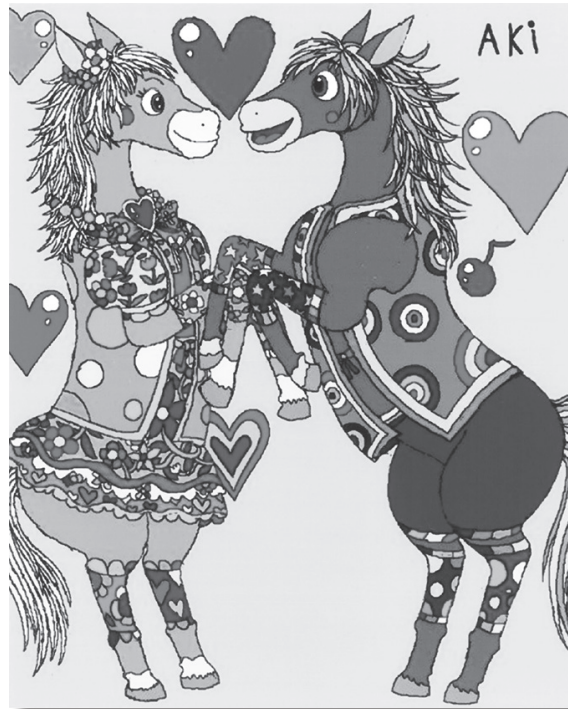
良いものをつくり、結核予防の啓発になる一端になれば幸いかと存じます。

私自身、4、5年前にカンボジアスタディツアーに参加いたしました。日本の先生方がカンボジアの職員に指導されている様子を目のあたりにし、世界の結核現状は先進国の支援が大切だと知りました。感染症故に安心できません。

私が子供の頃は、身近に患者さんがおりました。現在は、時々ニュー

スや新聞等で集団感染の報道を見ますが、まだまだ安心することはできません。忘れがちな症状、風邪を思わせるような症状など学習した知識を一人でも多くの皆さんにお伝えし、理解を求めていくことが大切かと思えます。複十字シール募金運動、結核予防関係婦人団体中央講習会への参加、「健康の輪」の編集等を通して正しい知識の啓発が出来たらと思えます。皆様のご支援どうぞよろしく願い申し上げます。

### 応募イラスト



(秋田県・akiponさんからの作品)

## イラスト・カット募集

平成26年7月号（健康の輪No.111）に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成26年5月9日（当会必着）です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL：03-3292-9288

